

広川町 アプリで再発見

久留米工大の学生グループが開発 町内巡るスタンプラリー開始

広川町の名所を親子で巡って魅力を探る「ひろかわまち再発見スタンプラリー」が14日、町内で始まった。初開催の昨年は手押しスタンプだったが、今年も久留米工業大(久留米市)の学生グループが専用アプリを開発。スマートフォンでスタンプを獲得できるようになった。ゲーム感覚が子どもたちの人気を集め、主催する町教育委員会側も集計などの手間が大幅に省けると喜んでいる。

(石黒雅史)



町内10カ所に設置してあるARマーカーをアプリのカメラ機能で撮影し、スタンプを獲得する参加者

町教委から依頼を受けた同大が、地域課題解決型の授業で研究テーマの一つに採用。情報ネットワーク工学科3年の堤勇大さん(20)ら4人のチームが昨年4月からアプリ開発に取り組んだ。授業での研究は4カ月後の成果報告会で完了した

が、その後は堤さんが引き継ぎ、担当の異靖昭准教授とともに約1年かけて実用化させた。

アプリ内の地図で目的地を探し、現地に設置されたAR(拡張現実)マーカーをカメラ機能で映すと、スタンプを獲得できる仕組み。参加者数の自動集計やアンケート機能も持たせた。堤さんは「気軽に使っているアプリでも、作る側はどれだけ大変か、初めて知った」と開発の苦労を語る。町教委の担当者は「昨年は毎日必要だった看板とスタンプ台の設置・撤収作業がなくなり、集計も簡単になって大助かり」という。昨年は約360人だった参加者の増加にも期待した。

久留米工大の学生グループが開発したアプリのスタート画面



スタンプラリーは22日まで、10カ所のスタンプを集めると記念品がもらえる。昨年にも参加したという町内の会社員重松卓也さん(45)と碧仁さん(小3)の親子は「(アプリの導入で)もっと面白くなった。道を覚えるのも楽しい」と話していた。